

目指せ

100億企業

「工業用ミシンから始まり、自動包装機、製袋機と関連する分野で事業を拡大してきた。現在、国内市場のシェアのほとんどを当社が占めている。製袋機のうち1種類の紙袋を製造する単能機は、最も速いモデルで1分間に500袋を生産可能だ。機械で紙袋を折る際のアームの位置調整をロボットが行う特

「100億宣言」だ。良い効果を生む取組に名乗りを上げた経緯も一つの目標になる。社員にとって「懸念にしている金も一つの目標になる」融機関から声をかけてもらったのがきっかけ。製袋機など高いシェアを持ちます。

(松本理志)

ニューロン工業(東京都葛飾区、長保行社長)は、紙袋の製造に用いる製袋機や自動包装機などの製造、販売を手がける。設計、部品製造からアフターメンテナンスまで顧客に寄り添った体制が強みだ。海外売上高の拡大により2026年9月期に売上高100億円を達成し、29年9月期には150億円まで伸ばすことを目指す。長保行社長に今後の事業戦略を聞いた。

ニューロン工業

社長 長 保行氏



許技術『ロボットバイナダー』も開発した。熟練作業者が調整を行う必要がなく、安全性と操作性を向上できる。海外売上高の拡大を目指しています。

「私は2代目だが、工業用ミシンは先代の父の時から海外向けに販売してきた。最初に進出したのは台湾だ。現在、インドでの生産拠点の立ち上げを計画している。アフリカにも営業拠点を設けようと考えている。インド

は現地の営業拠点の責任者と検討を進めており、M&A(合併・買収)による現地企業の買収なども選択肢になっている。これらは100億宣言の一つのきっかけにして、今後5年をめどにやれると考えている。現在の売上高は国内向けが617割だが、海外で工業用ミシンに加えて自動包装機、製袋機の販売を拡大し、海外売上高比率が国内売上高比率を上回ることを目指して

製袋・包装機海外で拡販

現地生産・メンテまで一貫



袋製機

製造する小

「注力していきたい点は、」

「当社のシステム化を図ること、少ない人数でこなせるようにし、コア業務にリソースを割いていきたい」

(随時掲載)

いる。中長期的には南米に営業拠点を整備する構想もある」

「目標達成に向けた課題は、

「国内市場だけでは難しい。海外市場でどこまで販売できるかがカギになる。安価な中国製の機械の性能が良くなってきたおり、国内で生産する流れは避けられないだろう。協シヨンだ。機械単体の力会社の廃 販売だけでなく、伴走業などで国しながらアフターメン内生産拠点テナンスまで提案する。それが差別化につながる。海外店からの発注業務では重複作業の発生など手間や人手的がかかっているため、システム化を図ること、少ない人数でこなせるようにし、コア業務にリソースを割いていきたい」

【企業データ】前身の長ミシン商会は1941年に創業し、麻袋補修用ミシンの製造を開始。56年に製造部門をニューロン工業として法人化した。工業用ミシン、自動包装機、製袋機は国内トップシェア。製品の設計から部品製造、組み立て、アフターサービスまで自社で一貫提供しており、部品は80%以上を自社生産する。2024年には「紙袋の製造に用いる製袋機」が第18回葛飾ブランド「葛飾町工場(まちこうば)物語」に認定された。売上高は25年9月期が95億円。26年9月期に100億円を達成し、29年9月期には150億円まで伸ばすことを目指す。